

事前評価個表

整理番号	2
------	---

地域(地区)名	あほしりとうぶ 網走東部	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	あほしりし 網走市ほか10市町
事業実施期間	H28 ~ H32 (5年間)	事業実施主体	北海道、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の東半分の地域であり、世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、網走国定公園など自然公園が多く、森と湖と海が調和した自然豊かな地域である。</p> <p>また、地形は、オホーツク海沿岸部には平地が多く、西部に北見山地、南から東にかけては、阿寒、知床連山を源として、網走川・常呂川等の河川が、北見盆地等の平野部を経てオホーツク海に注いでいる。</p> <p>本地区の総面積595千haのうち、森林面積は390千ha(森林率約66%)で、対象民有林は149千ha(森林全体の38%)、うちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林は77千ha(人工林率52%)となっている。また、本地区内の林道延長は699,094mで、公道等を含む林内道路密度は19.1m/haとなっており、このほかに林道の支派線としての作業道が整備されている。</p> <p>本地区は全道で有数のカラマツ林業地帯であり、一般民有林を中心に広く植栽されている。年齢構成はⅨ～Ⅹ年齢に集中しており、主伐の時期を迎えているが、間伐期にあるⅣ～Ⅷ年齢級の資源が非常に少なく、偏った資源構成となっている。将来にわたり木材の安定した供給を確保するに当たって、今のうちから資源管理に留意する必要があると考えられる。</p> <p>また、近年、カラマツ材の需要が急増し、一時的に伐採が進む一方で、木材価格が十分に所有者に還元されなかったり、長引く不況から、伐採後造林されない伐採跡地が増加する事態となっている。</p> <p>このことから、地域の森林資源を循環的に利用していくために適切な森林整備を進めていく必要がある。</p> <p>このため、網走東部地域森林環境保全整備事業計画に基づき本事業による森林整備及び路網整備を実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：34,040ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p>路網整備：1,630m 林業専用道</p> <p>総事業費：7,754,557千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 3.50 (総便益(B)=56,387,796千円、総費用(C)=16,117,183千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源涵養、国土保全等の機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名:森林環境保全整備事業

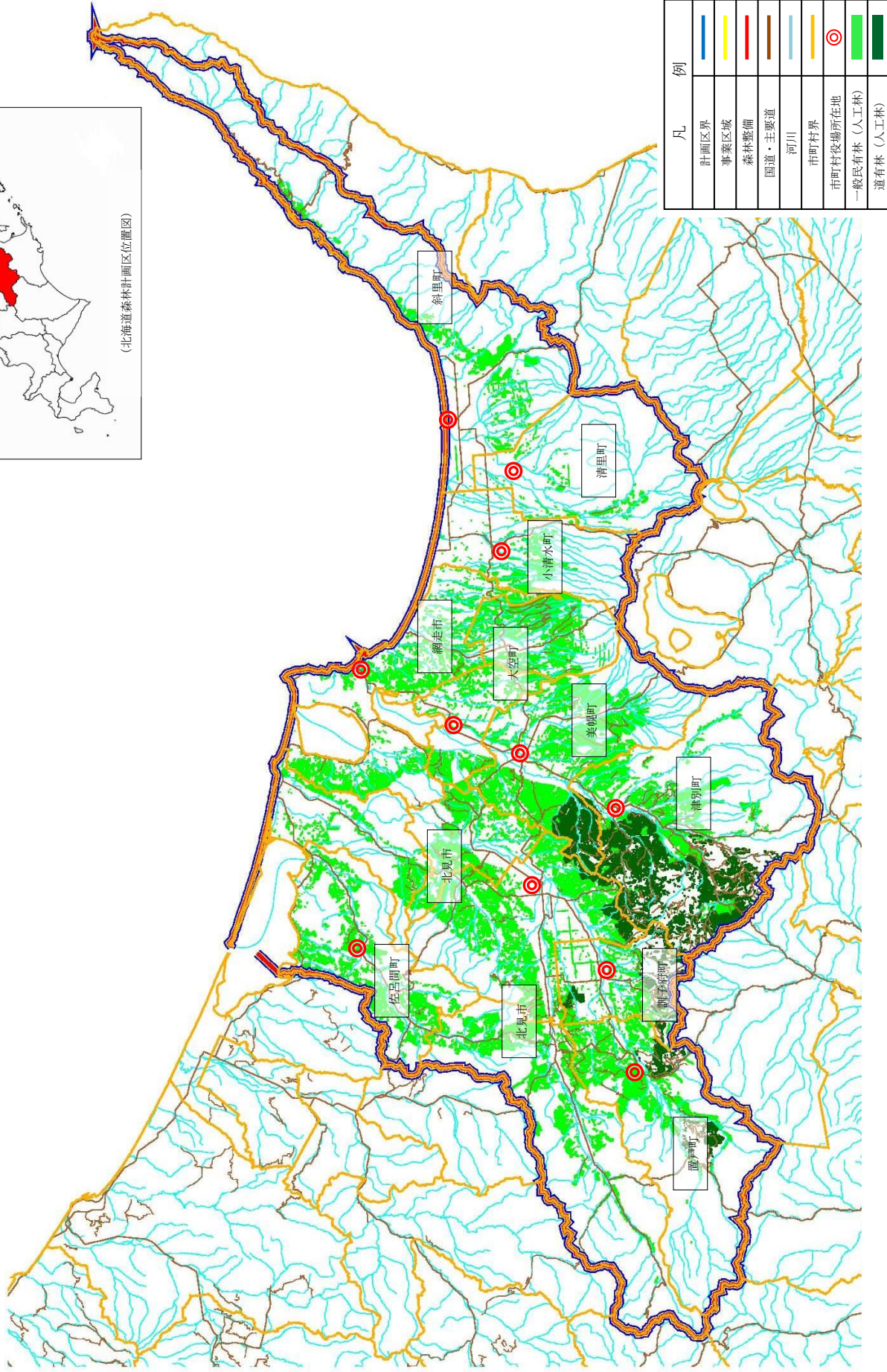
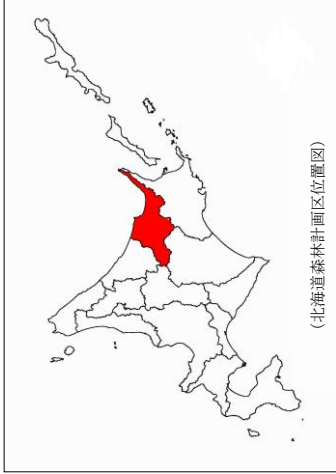
都道府県名:北海道

地域(地区)名:^{あばしり とうぶ}網走東部

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源 ^{かん} 涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	10,519,520	
	流域貯水便益	2,902,185	
	水質浄化便益	6,304,513	
山地保全便益	土砂流出防止便益	23,113,313	
	土砂崩壊防止便益	128,150	
環境保全便益	炭素固定便益	7,013,407	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	6,359,394	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	47,314	
総 便 益 (B)		56,387,796	
総 費 用 (C)		16,117,183	
費用便益比	$B \div C = \frac{56,387,796}{16,117,183} = 3.50$		

森林環境保全整備事業 網走東部（北海道）



凡	例
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	